



吸取紙

すいとりがみ



写真 1. 吸取紙 (拡大写真)

概要

吸取紙（すいとりがみ）は、サイジング（滲み防止加工）を一切施していないため吸水性に富んだ紙です。銅版画や木版画（主に水性木版）を刷る際は、用紙をあらかじめ湿しておきますが、その用紙の水分が多過ぎる場合などに、吸取紙を用いて湿り具合を調整します。

吸取紙の基本的な利用方法は、何枚かの吸取紙を重ね、一番上には表面が滑らかな別の紙を置いておきます。そして刷りの直前に、湿した紙を吸取紙の重なるの間に挟み込み、上からバレンや手で擦って圧力をかけて余分な水分を取ります（一番上に滑らかな紙を置くのは、バレンや手のすべりを良くし、吸取紙が痛まないようにするためです）。大作であれば、布などをバレーボールくらいの大きさに丸めて擦ってもよいでしょう。吸水性が大きいので、水分の取り過ぎには注意しましょう。また、吸取紙は余分な水分を取り除くだけでなく、湿した吸取紙に用紙を挟み、用紙に水分を与えるためにも使用できます。ちなみに、これらの作業には、吸取性がよければ他の紙でも代用が可能です。

紙の裏表は見分けにくいのですが、吸取紙は紙肌が若干ザラつきのある面が表側で、やや平滑に感じられる面が裏側になります。基本的には吸取紙の表側を湿した紙の表面に向けて使用しますが、裏表を気にせず使用しても問題はありません。

取扱いの注意として、作業が終了したら、湿った吸取紙はよく乾かしておきます。湿った状態では吸水能力が低下し、またカビの原因ともなります。吸取紙は正しく使えば、何回でも使用できます。

吸取紙は、版画専門店で購入することができます。

※写真中の紙色は、実際とは異なる場合があります。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字



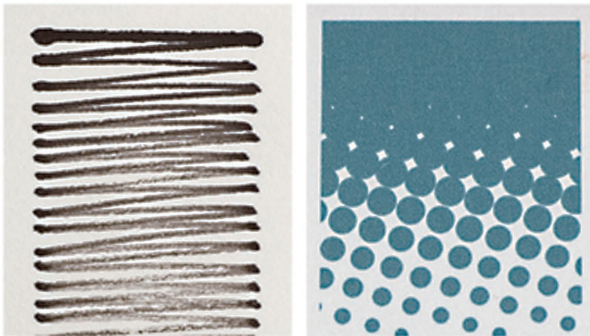
鉛筆

透明水彩



コンテ

墨汁



ペンインク

インクジェット

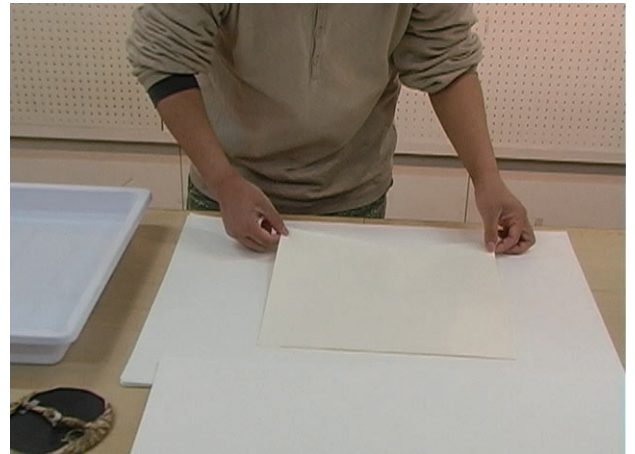
写真2. 吸収紙における描画例（拡大写真）

※描画例（写真）は、用紙の特性や表現の可能性を示すためのテストサンプルであり、特定の描画材の使用を薦めているものではありません。（一般的には適していないとされる描画材もあえて使用しています。）

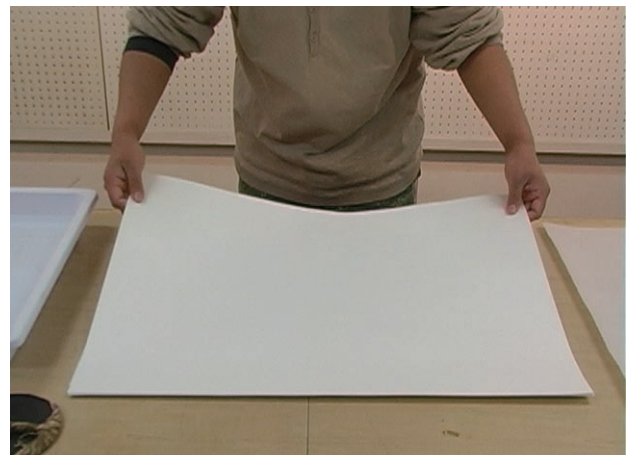
紙の湿し（吸収紙を使用する場合）



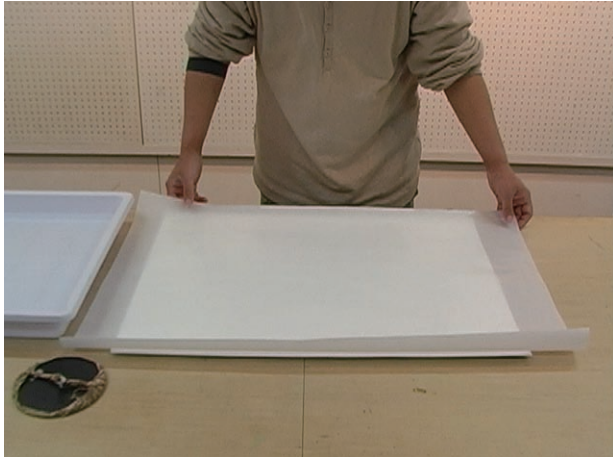
手順1. バットに水を注ぎ、半日程度、紙を浸しておきます。



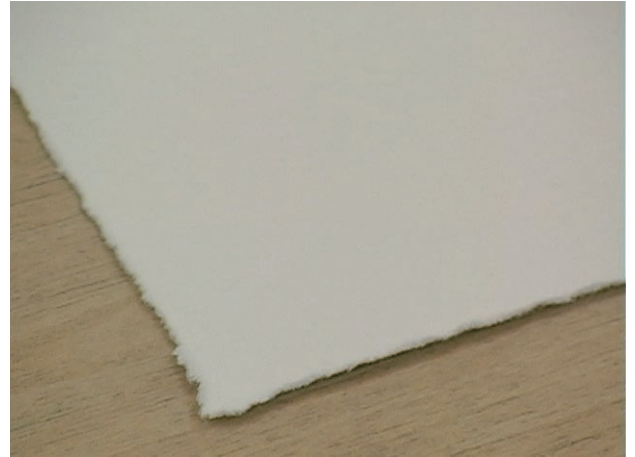
手順2. 水から紙を取り出し、バットの縁などで水をよく切った後、吸収紙を数枚重ねた上に乗せます。



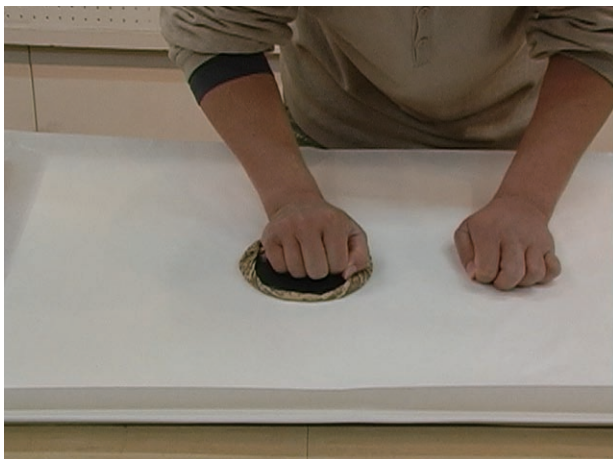
手順3. 湿らせた紙の上からも、数枚の吸収紙を重ねます。



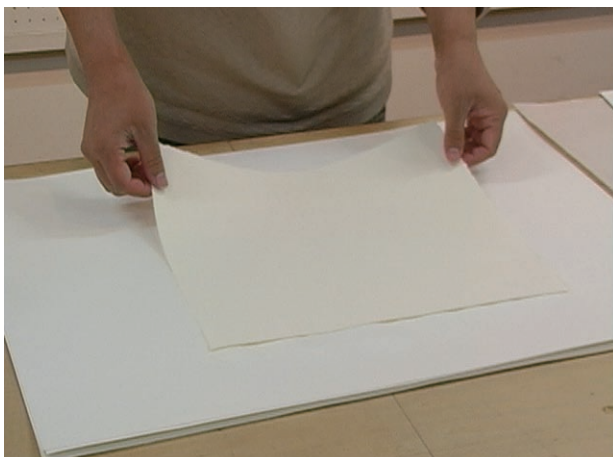
手順4. さらに、数枚の吸取紙の上に、表面が滑りやすいロール紙などを重ねます。



手順7. 適度に水分を含んだ紙になります。



手順5. バレンなどで上から圧力を万遍なくかけ、湿らせた紙の表面の余分な水分を取ります。



手順6. 上に重ねていた吸取紙などを外します。